

第 35 回四国中央市障害児等福祉審議会 会議録

日時 | 令和 4 年 2 月 24 日 (木) 15 : 00 ~ 16 : 45

場所 | リモート開催

出席者

[委員] ※敬称略

井原佳代 [委員長]

森川恵里 [副委員長]

藤枝俊之、山内紀子、井上陽子、立花清香、奥井真理子、越智寛、鈴木秀明、近藤美沙、山本淑子

[事務局]

福祉部長 大西緑

管理係 長野敏秀、河村清児

児童発達支援センター 高橋美樹

東部子どもホーム 後藤鉄也

欠席者

[委員]

石川直子

[事務局]

発達支援課長 田邊真二

総合相談係 石川考太

発達支援係 森美琴

[傍聴者]

なし

1 開会

2 議事

(1) 第 34 回障害児等福祉審議会会議録 (案) の確認

事務局 《会議録案を説明。内容省略》

委員 承認

(2) 「パレットプランの改定」

事務局 第 2 期パレット・プラン (案) について報告させていただく。

《パレットプランの改定を説明。内容省略》

委員 <全員承認>

(3) 2021 年度事業報告 (速報)

事務局 (18 分 30 秒～) 2021 年度事業報告 (速報) について報告させていただく。
《2021 年度事業報告 (速報) を説明。内容省略》

越智委員 若者の相談者の最年長の方の年齢は。

事務局 現在の最年長の方は 30 代前半ぐらいの方である。

越智委員 相談者が歳を重ねていって 40 歳を迎えた時、引き続き相談対応してもらえるのか。

事務局 相談の内容によるが、決して 40 歳がきたのですぐに相談できないということはない。
内容に応じて関係機関と連携していきながら対応していく。

越智委員 以前とある機関に相談されていた 40 歳の方が、対象年齢が 40 歳までということで相談
に行くところがなくなり基幹相談支援センターに来られたことがあった。パレットでは
そのようなことがないように対応してもらえるとこのような方が少なくなると思う。

藤枝委員 コロナになって約 2 年間たっているが、コロナ前後の発達支援の在り方について総括を
盛り込むことはできないか。

事務局 非常に難しい課題ではあるが、コロナ禍の 2 年間の数値として少しずつ見えてきたところ
もある。総括として明確なものを作るのは難しいが、パレットとしての見解を考え、
その内容をもとに関係機関の方と調整して対応できたらと考えている。

藤枝委員 報告は次への継続につながるまとめになる。コロナはしばらく続き社会の情勢が大きく
変わってくると思うので、そのあたりが子供の成長発育にどうかかわっていくのか重要な
テーマになってくる。また ICT の小学校以降活用が進んでおり、各機関が ICT にと
もなって変わってきているところがあるので、新しい時代の部分を反映させた報告に繋
げてほしい。今回は難しいと思うが、次年度の報告に検討していただきたい。

事務局 内部で協議して進めていきたい。

井原委員長 報告について、前年度との比較になったときに前年度もコロナの影響があり、前々年度
との比較が見えにくくなるのでどこと比較したほうが良いのか。この報告の数字をもと
に来年度どうしていこうかと考えたとき、コロナ前までの数字にはできないが、新しい
状況に応じた形を考えていかなければならない。コロナの影響がでて 2 年が経過してお
り、お子様の発達において非常に大切な期間であるがどう思われるか。

事務局 事業報告を作るときに、昨年度だけでなく、2 年前の事業報告も確認しながら作成した
が、残念ながら今回の報告書のデータに反映できていない。コロナ前や同じコロナでも
去年とどう変わったのかという検証は始めているところである。実際同じコロナなのに
なぜ去年から今年に関して変化があるのか、コロナ影響前との比較をしながら、この時
代に合った何かというのを考えていけたらと思う。

立花委員 79 ページの 5 歳児アンケートについて、未回収の 3 名の方の理由はわかっているのか。理由がわかっているのならいいが、出せない理由があるのならフォローした方がいいと思うが。

事務局 理由を確認して適切に対処していきたい。

(4) 太陽の家施設更新の進捗状況

事務局 太陽の家施設更新の進捗状況) について報告させていただく。

《太陽の家施設更新の進捗状況を説明。内容省略》

山本委員 まず指定管理者を決め、その指定管理者が地域移行をするということなのか。

事務局 指定管理者だけで地域移行を進めるということではなく、行政がバックアップしながら一緒に地域移行を進めていく形になる。なお、相談支援専門員などの必要な外部機関とチームを組みながら、本人の意思に沿った形で円滑に地域移行が進むよう考えている。

山本委員 定員改正について、北側と南側に分けてとあるが、今から太陽の家で移動させようとしているのか。

事務局 実際に別れて暮らしている状況であり、現況に合わせて定員を改正するということになる。

鈴木委員 移行期間中でも入所は受け入れてくれるのか。

事務局 現状に合わせて定員改正するが、1 人当たりの部屋の面積が十分に確保できておらず、また、多人数部屋が解消されていないのが現状である。すぐに受け入れ可能とはならないが、今後地域移行が進み状況が改善されれば、随時相談していく。

鈴木委員 実際に今日も入所の相談があった。他市にいきなり相談に行くのではなく、最初は市内にある事業所に相談させていただきたいので今後とも引き続き相談に乗っていただけたらと思う。

越智委員 先ほどの鈴木委員と重なるが、今日急遽ケース会議があり、その方は四国中央市にまだ住所があるが受け入れてもらえる事業所がなく、市外や県外で場所を探さなければならない状況にあり非常に課題の大きいケース会議であった。やはり四国中央市内にいる方なので、四国中央市の事業所が選択肢なるような状況になっていたとありがたい。

事務局 そういった課題も認識しているので、地域移行の中にあるグループホームなどの環境整備を進め、ニーズに対応できるよう考えている。

(5) 今後の審議会

事務局 今後の審議会について説明させていただく。

《今後の審議会について説明。内容省略》

山内委員 自立支援協議会の中にこども部会が設立されると思うが、パレットとどのように役割分担するのか。また、あまり役割分担しすぎると縦割りになるがどのように考え

ているか。

事務局　こども部会に関しては事務局をパレットが担うことになる。パレットの運営については新たな運営審議会で審議していくように考えており、それ以外の市全体の障がい児に関する施策についてはこども部会のほうで一元的に審議し、障がい者施策とも連携しながら検討していく。

藤枝委員　パレットの得意分野は教育委員会との連携による、未就学から就学への移行の部分などであり、自立支援協議会になった場合、自立支援協議会は就労移行や成人期への移行などが得意分野なので、パレットの得意分野が弱くなるのが非常に危惧される。それに関しても何か方策について今の段階で話ができることなどあるか。

事務局　まだ検討段階なので詳しくは言えないが、こども部会の部会長になる予定の方は未就学から就学への移行の部分重要視されておりますので、部会のメンバーに関係者をお招きして話をできればと考えている。また、パレットとしては今後も市内の発達支援の中心的機関としてこれからも支援を続けていく。

藤枝委員　今後は胎生期からの支援も重要になってくるので、そのあたりの検討もお願いしたい。

山内委員　不登校について、来所できない人達が1番困っているのではないかと考える。学校や園への訪問だけでなく、家庭への訪問なども検討していただきたい。また、行政だけでなく一般事業所も支援できるような体制が検討されてきていると聞いているので、官民協働の体制ができればと思う。

事務局　不登校の問題に関してはパレットとしても重く受け止めている。ただパレットだけではどうしても解決できない問題もたくさんある。いろいろな強みを持つ関係機関の方がいるので連携していく。また、今までの来所相談、電話相談だけではなく新たに ICT の活用や訪問などの方法を検討していきたい。

鈴木委員　こども部会は自立支援協議会の中に来期初めてできる部会になる。今までは障がい者の方について考える部会が多かった中で、ずっと子供のことについて特化する部会が必要だと言われてきて、相談支援専門委員連絡会からこども部会を設置してほしいと提言させていただき実現することとなった。この図を見ると本審議会が今まで審議してきたことが自立支援協議会に移り、新しい審議会で審議することが薄くなるように勘違いされるかもしれないが、そうではなく自立支援協議会でやっどこどものことについて協議できる場ができ、新しい審議会ではパレット・プランという大変なものも審議していくことになる。

井原委員長　今回の提案は新しい取り組みであり色々と展開していければと思うところと、今までパレットが積み上げてきた機能は絶対生かしたほうが良いと思う。少し役割や機能が変わっていくと思うが、パレットは不可欠な存在なので皆様のご協力をいただきたい。

越智委員　新しい取り組みは運営が難しい部分もあるが、運営審議会やこども部会は発達支援課が事務局をすることと、時間をかけすぎてもいけないとは思いますがよりいいも

のができて障がい児、障がい者の方が過ごしやすくなるように街づくりができたら
と思う。いい連携ができるよう協力していきたい。

委員 <全員承認>

(6) その他

井原委員長 最後の障がい児福祉審議会なので、一人一言ずつお願いしたい。

各委員 《委員より感想。内容省略》

3 閉会

副委員長 地域によって福祉に対する取り組みやサービスはさまざまである。四国中央市の強みは、なんといっても子ども若者発達支援センターがあることである。これからもどんどん成長して行っていただきたい。最後に、福祉にかかわる人の一言が、障がいにかかわる家族の人生に大きな影響を与える。そのことを肝に銘じて、今後も支援していただきたい。今まで、長い間お疲れ様でした。
